

第39回全国高等学校柔道選手権大会長野県大会実施要項

主催 長野県柔道連盟

共催 長野県高等学校体育連盟

主管 長野県高等学校体育連盟柔道専門部

期日 平成29年1月14日(土) 開会式 午後1時30分 : 男女個人試合
1月15日(日) 開始式 午前9時30分 : 男女団体試合

会場 小諸市武道館

日程	初日 1月14日(土)	個人試合	2日目 1月15日(日)	団体試合
1. 計量	12:00~12:30		1. 女子団体計量	8:00~8:30
2. 審判監督会議	13:00~13:30		2. 審判監督会議	9:00~9:30
3. 開会式	13:30~		3. 開始式	9:30~
4. 試合開始予定	14:00~		4. 試合開始予定	10:00~
5. 試合終了予定	17:00		5. 閉会式	15:00~

競技規則

(1) 国際柔道連盟試合審判規定ならびに全国高体連柔道専門部申し合わせ事項による。

① 団体試合

②

③ ア 試合時間は3分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」または「僅差」以上とする。

なお、僅差は「指導差が2以上」とする。

ウ チームの内容が同等の場合は代表選手を任意に選出して代表選を行う。代表戦で得点差がない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。延長戦(ゴールデンスコア)は時間無制限とする。判定基準は②個人試合に準じる。

②個人試合

ア 試合時間は3分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」以上とする。技による評価が同等の場合は「指導」が少ない方を勝ちとする。

ウ 得点差がない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。延長戦(ゴールデンスコア)は時間無制限とする。

(2) 試合場サイズは紅畳の内側部分の32畳とし、紅畳からは場外とする。

競技方法

1. 男子団体試合

① トーナメント戦で行う。

② 各チーム間の試合は勝ち抜き試合とする。

③ 試合は各チーム5名で行い、試合ごとのオーダーの変更を認める。

2. 女子団体試合

① トーナメント戦で行う。

② 各チーム間の試合は体重別点取り試合とする。トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

ウ イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ ウで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

オ エで同等の場合は、代表戦を行う。

③ 試合は各チーム3名で行う。試合ごとのオーダー変更は行わない。

引率・監督

1. 選手は必ず当該校の引率責任者に引率され、引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を負う者とする。
2. 引率責任者は校長が認める当該校の職員とする。
3. 監督は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険に必ず加入することを条件とする。
4. 監督の役割
 - ①監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。
5. 監督の行為・言動
 - ①試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対し指示を与えることが出来る。
 - ②次の行為を禁止する。
 - (ア) 試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。
 - (イ) 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。
6. 罰則規定
 - ①1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。
 - ②2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。

※次の試合（対戦校）からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席への着席を認めない。

参加資格

1. 高等学校在籍生徒で、平成10年4月2日以降に生まれた者（平成28年4月2日現在で18歳未満であり、第1・2学年に在籍していること）。ただし、同一学年の出場は一回限りとする。
2. 転校後6ヶ月未満の者は出場することができない。ただし、一家転住等の理由により、やむをえない場合はこの限りではない。
3. チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混合は認めない。
4. 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を得ること。
5. 県高体連登録を完了し大会参加が認められている生徒であること。また、全日本柔道連盟に選手登録をしていること。
6. 「脳しんとう」に関する扱いは以下のとおりとする。
 - ①大会前1か月以内に脳しんとうを受傷した者は、脳神経外科の診断を受け、出場の許可を得ること。
 - ②大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。尚至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。
 - ③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④当該選手の指導者は、大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
7. 皮膚真菌症（トリコフィトン・トングランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
8. その他詳細は全国大会に準ずる。

参加制限

1. 男子団体試合
 - ①1校1チームとし、監督1名 選手10名以内を登録する。最低3名の選手登録で出場を認めるが、全国大会出場校は5名の登録が必要。
 - ②個人試合終了30分後までに6名エントリーする。それ以後の選手変更はできない。

- ③試合の成立は最低3名の出場選手が必要。
2. 女子団体試合
- ①1校1チームとし、監督1名 選手7名以内を登録する。最低2名の選手登録が必要。
- ②個人試合終了30分後までに選手3名、補欠2名をエントリーする。それ以後の選手変更はできない。
- ③体重区分は、先鋒：52kg以下、中堅：63kg以下、大将：無差別。（体重の軽い者は重い階級に出場できる。）なお、補欠は該当する階級に出場できる。
- ④計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
3. 男子個人試合
- ①体重区分は4階級[60kg級, 66kg級, 73kg級, 81kg級]および無差別とする。
- ②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
- ③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
- ④各地区、各階級、4名の選手に推薦順位をつけて推薦する。
4. 女子個人試合
- ①体重区分は4階級[48kg級, 52kg級, 57kg級, 63kg級]および無差別とする。
- ②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
- ③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
- ④女子は、以下の階級に登録できる。
- (1) 団体・先鋒（52kg以下に登録した場合）
個人は、48kg級・52kg級・無差別のいずれかに登録できる。
- (2) 団体・中堅（63kg以下に登録した場合）
個人は、全ての階級ならびに無差別のいずれかに登録できる。
- ⑤地区による参加制限を設けず、オープン参加とするが、各地区選考会への登録を必要とする。

計 量 男女個人試合計量：1月14日（土）12：00～12：30の間、大会会場で実施する。
（無差別は計量しない。）※女子個人の計量は、女子団体の計量を兼ねる。
女子団体試合計量：1月15日（日）8：00～8：30の間、大会会場で実施する。
※前日計量を行っていない選手のみ計量を行う。
服装は高体連規定に準じる。計量を行わない者は出場できない。

参加申込 各地区予選会において、所定用紙に必要事項を記入の上、参加料（男子団体：5,000円、女子団体：3,000円、個人：2,000円）を添え各地区高体連柔道専門委員長に申し込むこと。

組み合わせ 12月13日（火）に、県専門委員会において行う。
男女団体試合については、ともに新人大会の上位4校（男子については団体I部）をシードし他の学校については県専門委員会がフリー抽選で配置する。
女子個人試合については、新人大会の成績により上位2名の選手をシード位置に配置し、残りの選手は、フリー抽選で配置する。
登録変更団体試合について男女とも2名までの登録変更を認める。1月14日（土）午後2時30分までに大会本部で受け付ける。ただし、所定の用紙に必要事項を記入の上、学校長の許可（校長印）が必要。また、最大登録人員に満たない学校の場合は、追加登録として参加料を徴収する。

その他 1. 団体試合の優勝チームおよび個人試合優勝者は長野県の代表として全国大会に参加できる。優勝チームが全国大会の参加資格に合わない場合は、次順位校とし、その選出・決定については、県専門委員会で協議する。
2. 競技中の傷害・疾病などの応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。

第39回全国高等学校柔道選手権大会長野県大会実施要項

主催 長野県柔道連盟

共催 長野県高等学校体育連盟

主管 長野県高等学校体育連盟柔道専門部

期日 平成29年1月14日(土) 開会式 午後1時30分 : 男女個人試合
1月15日(日) 開始式 午前9時30分 : 男女団体試合

会場 小諸市武道館

日程	初日 1月14日(土)	個人試合	2日目 1月15日(日)	団体試合
1. 計量	12:00~12:30		1. 女子団体計量	8:00~8:30
2. 審判監督会議	13:00~13:30		2. 審判監督会議	9:00~9:30
3. 開会式	13:30~		3. 開始式	9:30~
4. 試合開始予定	14:00~		4. 試合開始予定	10:00~
5. 試合終了予定	17:00		5. 閉会式	15:00~

競技規則

(1) 国際柔道連盟試合審判規定ならびに全国高体連柔道専門部申し合わせ事項による。

① 団体試合

②

③ ア 試合時間は3分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」または「僅差」以上とする。

なお、僅差は「指導差が2以上」とする。

ウ チームの内容が同等の場合は代表選手を任意に選出して代表選を行う。代表戦で得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦（ゴールデンスコア）は時間無制限とする。判定基準は②個人試合に準じる。

②個人試合

ア 試合時間は3分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」以上とする。技による評価が同等の場合は「指導」が少ない方を勝ちとする。

ウ 得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦（ゴールデンスコア）は時間無制限とする。

(2) 試合場サイズは紅畳の内側部分の32畳とし、紅畳からは場外とする。

競技方法

1. 男子団体試合

① トーナメント戦で行う。

② 各チーム間の試合は勝ち抜き試合とする。

③ 試合は各チーム5名で行い、試合ごとのオーダーの変更を認める。

2. 女子団体試合

① トーナメント戦で行う。

② 各チーム間の試合は体重別点取り試合とする。トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

ウ イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ ウで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

オ エで同等の場合は、代表戦を行う。

③ 試合は各チーム3名で行う。試合ごとのオーダー変更は行わない。

引率・監督

1. 選手は必ず当該校の引率責任者に引率され、引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を負う者とする。
2. 引率責任者は校長が認める当該校の職員とする。
3. 監督は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険に必ず加入することを条件とする。
4. 監督の役割
 - ①監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。
5. 監督の行為・言動
 - ①試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対し指示を与えることが出来る。
 - ②次の行為を禁止する。
 - (ア) 試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。
 - (イ) 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。
6. 罰則規定
 - ①1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。
 - ②2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。

※次の試合（対戦校）からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席への着席を認めない。

参加資格

1. 高等学校在籍生徒で、平成10年4月2日以降に生まれた者（平成28年4月2日現在で18歳未満であり、第1・2学年に在籍していること）。ただし、同一学年の出場は一回限りとする。
2. 転校後6ヶ月未満の者は出場することができない。ただし、一家転住等の理由により、やむをえない場合はこの限りではない。
3. チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混合は認めない。
4. 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を得ること。
5. 県高体連登録を完了し大会参加が認められている生徒であること。また、全日本柔道連盟に選手登録をしていること。
6. 「脳しんとう」に関する扱いは以下のとおりとする。
 - ①大会前1か月以内に脳しんとうを受傷した者は、脳神経外科の診断を受け、出場の許可を得ること。
 - ②大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。尚至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。
 - ③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④当該選手の指導者は、大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
7. 皮膚真菌症（トリコフィトン・トングランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
8. その他詳細は全国大会に準ずる。

参加制限

1. 男子団体試合
 - ①1校1チームとし、監督1名 選手10名以内を登録する。最低3名の選手登録で出場を認めるが、全国大会出場校は5名の登録が必要。
 - ②個人試合終了30分後までに6名エントリーする。それ以後の選手変更はできない。

- ③試合の成立は最低3名の出場選手が必要。
2. 女子団体試合
- ①1校1チームとし、監督1名 選手7名以内を登録する。最低2名の選手登録が必要。
- ②個人試合終了30分後までに選手3名、補欠2名をエントリーする。それ以後の選手変更はできない。
- ③体重区分は、先鋒：52kg以下、中堅：63kg以下、大将：無差別。（体重の軽い者は重い階級に出場できる。）なお、補欠は該当する階級に出場できる。
- ④計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
3. 男子個人試合
- ①体重区分は4階級[60kg級, 66kg級, 73kg級, 81kg級]および無差別とする。
- ②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
- ③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
- ④各地区、各階級、4名の選手に推薦順位をつけて推薦する。
4. 女子個人試合
- ①体重区分は4階級[48kg級, 52kg級, 57kg級, 63kg級]および無差別とする。
- ②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
- ③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
- ④女子は、以下の階級に登録できる。
- (1) 団体・先鋒（52kg以下に登録した場合）
個人は、48kg級・52kg級・無差別のいずれかに登録できる。
- (2) 団体・中堅（63kg以下に登録した場合）
個人は、全ての階級ならびに無差別のいずれかに登録できる。
- ⑤地区による参加制限を設けず、オープン参加とするが、各地区選考会への登録を必要とする。

計 量 男女個人試合計量：1月14日（土）12：00～12：30の間、大会会場で実施する。
（無差別は計量しない。）※女子個人の計量は、女子団体の計量を兼ねる。
女子団体試合計量：1月15日（日）8：00～8：30の間、大会会場で実施する。
※前日計量を行っていない選手のみ計量を行う。
服装は高体連規定に準じる。計量を行わない者は出場できない。

参加申込 各地区予選会において、所定用紙に必要事項を記入の上、参加料（男子団体：5,000円、女子団体：3,000円、個人：2,000円）を添え各地区高体連柔道専門委員長に申し込むこと。

組み合わせ 12月13日（火）に、県専門委員会において行う。
男女団体試合については、ともに新人大会の上位4校（男子については団体I部）をシードし他の学校については県専門委員会がフリー抽選で配置する。
女子個人試合については、新人大会の成績により上位2名の選手をシード位置に配置し、残りの選手は、フリー抽選で配置する。
登録変更団体試合について男女とも2名までの登録変更を認める。1月14日（土）午後2時30分までに大会本部で受け付ける。ただし、所定の用紙に必要事項を記入の上、学校長の許可（校長印）が必要。また、最大登録人員に満たない学校の場合は、追加登録として参加料を徴収する。

その他 1. 団体試合の優勝チームおよび個人試合優勝者は長野県の代表として全国大会に参加できる。優勝チームが全国大会の参加資格に合わない場合は、次順位校とし、その選出・決定については、県専門委員会で協議する。

2. 競技中の傷害・疾病などの応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。

第39回全国高等学校柔道選手権大会長野県大会実施要項

主催 長野県柔道連盟

共催 長野県高等学校体育連盟

主管 長野県高等学校体育連盟柔道専門部

期日 平成29年1月14日(土) 開会式 午後1時30分 : 男女個人試合
1月15日(日) 開始式 午前9時30分 : 男女団体試合

会場 小諸市武道館

日程	初日 1月14日(土)	個人試合	2日目 1月15日(日)	団体試合
1. 計量	12:00~12:30		1. 女子団体計量	8:00~8:30
2. 審判監督会議	13:00~13:30		2. 審判監督会議	9:00~9:30
3. 開会式	13:30~		3. 開始式	9:30~
4. 試合開始予定	14:00~		4. 試合開始予定	10:00~
5. 試合終了予定	17:00		5. 閉会式	15:00~

競技規則

(1) 国際柔道連盟試合審判規定ならびに全国高体連柔道専門部申し合わせ事項による。

① 団体試合

②

③ ア 試合時間は3分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」または「僅差」以上とする。

なお、僅差は「指導差が2以上」とする。

ウ チームの内容が同等の場合は代表選手を任意に選出して代表選を行う。代表戦で得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦（ゴールデンスコア）は時間無制限とする。判定基準は②個人試合に準じる。

②個人試合

ア 試合時間は3分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」以上とする。技による評価が同等の場合は「指導」が少ない方を勝ちとする。

ウ 得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦（ゴールデンスコア）は時間無制限とする。

(2) 試合場サイズは紅畳の内側部分の32畳とし、紅畳からは場外とする。

競技方法

1. 男子団体試合

① トーナメント戦で行う。

② 各チーム間の試合は勝ち抜き試合とする。

③ 試合は各チーム5名で行い、試合ごとのオーダーの変更を認める。

2. 女子団体試合

① トーナメント戦で行う。

② 各チーム間の試合は体重別点取り試合とする。トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

ウ イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ ウで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

オ エで同等の場合は、代表戦を行う。

③ 試合は各チーム3名で行う。試合ごとのオーダー変更は行わない。

引率・監督

1. 選手は必ず当該校の引率責任者に引率され、引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を負う者とする。
2. 引率責任者は校長が認める当該校の職員とする。
3. 監督は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険に必ず加入することを条件とする。
4. 監督の役割
 - ①監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。
5. 監督の行為・言動
 - ①試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対し指示を与えることが出来る。
 - ②次の行為を禁止する。
 - (ア) 試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。
 - (イ) 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。
6. 罰則規定
 - ①1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。
 - ②2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。

※次の試合（対戦校）からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席への着席を認めない。

参加資格

1. 高等学校在籍生徒で、平成10年4月2日以降に生まれた者（平成28年4月2日現在で18歳未満であり、第1・2学年に在籍していること）。ただし、同一学年の出場は一回限りとする。
2. 転校後6ヶ月未満の者は出場することができない。ただし、一家転住等の理由により、やむをえない場合はこの限りではない。
3. チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混合は認めない。
4. 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を得ること。
5. 県高体連登録を完了し大会参加が認められている生徒であること。また、全日本柔道連盟に選手登録をしていること。
6. 「脳しんとう」に関する扱いは以下のとおりとする。
 - ①大会前1か月以内に脳しんとうを受傷した者は、脳神経外科の診断を受け、出場の許可を得ること。
 - ②大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。尚至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。
 - ③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④当該選手の指導者は、大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
7. 皮膚真菌症（トリコフィトン・トングランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
8. その他詳細は全国大会に準ずる。

参加制限

1. 男子団体試合
 - ①1校1チームとし、監督1名 選手10名以内を登録する。最低3名の選手登録で出場を認めるが、全国大会出場校は5名の登録が必要。
 - ②個人試合終了30分後までに6名エントリーする。それ以後の選手変更はできない。

- ③試合の成立は最低3名の出場選手が必要。
2. 女子団体試合
- ①1校1チームとし、監督1名 選手7名以内を登録する。最低2名の選手登録が必要。
- ②個人試合終了30分後までに選手3名、補欠2名をエントリーする。それ以後の選手変更はできない。
- ③体重区分は、先鋒：52kg以下、中堅：63kg以下、大将：無差別。（体重の軽い者は重い階級に出場できる。）なお、補欠は該当する階級に出場できる。
- ④計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
3. 男子個人試合
- ①体重区分は4階級[60kg級, 66kg級, 73kg級, 81kg級]および無差別とする。
- ②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
- ③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
- ④各地区、各階級、4名の選手に推薦順位をつけて推薦する。
4. 女子個人試合
- ①体重区分は4階級[48kg級, 52kg級, 57kg級, 63kg級]および無差別とする。
- ②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
- ③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
- ④女子は、以下の階級に登録できる。
- (1) 団体・先鋒（52kg以下に登録した場合）
個人は、48kg級・52kg級・無差別のいずれかに登録できる。
- (2) 団体・中堅（63kg以下に登録した場合）
個人は、全ての階級ならびに無差別のいずれかに登録できる。
- ⑤地区による参加制限を設けず、オープン参加とするが、各地区選考会への登録を必要とする。

計 量 男女個人試合計量：1月14日（土）12：00～12：30の間、大会会場で実施する。
（無差別は計量しない。）※女子個人の計量は、女子団体の計量を兼ねる。
女子団体試合計量：1月15日（日）8：00～8：30の間、大会会場で実施する。
※前日計量を行っていない選手のみ計量を行う。
服装は高体連規定に準じる。計量を行わない者は出場できない。

参加申込 各地区予選会において、所定用紙に必要事項を記入の上、参加料（男子団体：5,000円、女子団体：3,000円、個人：2,000円）を添え各地区高体連柔道専門委員長に申し込むこと。

組み合わせ 12月13日（火）に、県専門委員会において行う。
男女団体試合については、ともに新人大会の上位4校（男子については団体I部）をシードし他の学校については県専門委員会がフリー抽選で配置する。
女子個人試合については、新人大会の成績により上位2名の選手をシード位置に配置し、残りの選手は、フリー抽選で配置する。
登録変更団体試合について男女とも2名までの登録変更を認める。1月14日（土）午後2時30分までに大会本部で受け付ける。ただし、所定の用紙に必要事項を記入の上、学校長の許可（校長印）が必要。また、最大登録人員に満たない学校の場合は、追加登録として参加料を徴収する。

その他 1. 団体試合の優勝チームおよび個人試合優勝者は長野県の代表として全国大会に参加できる。優勝チームが全国大会の参加資格に合わない場合は、次順位校とし、その選出・決定については、県専門委員会で協議する。

2. 競技中の傷害・疾病などの応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。

第39回全国高等学校柔道選手権大会長野県大会実施要項

主催 長野県柔道連盟

共催 長野県高等学校体育連盟

主管 長野県高等学校体育連盟柔道専門部

期日 平成29年1月14日(土) 開会式 午後1時30分 : 男女個人試合
1月15日(日) 開始式 午前9時30分 : 男女団体試合

会場 小諸市武道館

日程	初日 1月14日(土)	個人試合	2日目 1月15日(日)	団体試合
1. 計量	12:00~12:30		1. 女子団体計量	8:00~8:30
2. 審判監督会議	13:00~13:30		2. 審判監督会議	9:00~9:30
3. 開会式	13:30~		3. 開始式	9:30~
4. 試合開始予定	14:00~		4. 試合開始予定	10:00~
5. 試合終了予定	17:00		5. 閉会式	15:00~

競技規則

(1) 国際柔道連盟試合審判規定ならびに全国高体連柔道専門部申し合わせ事項による。

① 団体試合

②

③ ア 試合時間は3分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」または「僅差」以上とする。

なお、僅差は「指導差が2以上」とする。

ウ チームの内容が同等の場合は代表選手を任意に選出して代表選を行う。代表戦で得点差がない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。延長戦(ゴールデンスコア)は時間無制限とする。判定基準は②個人試合に準じる。

②個人試合

ア 試合時間は3分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」以上とする。技による評価が同等の場合は「指導」が少ない方を勝ちとする。

ウ 得点差がない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。延長戦(ゴールデンスコア)は時間無制限とする。

(2) 試合場サイズは紅畳の内側部分の32畳とし、紅畳からは場外とする。

競技方法

1. 男子団体試合

① トーナメント戦で行う。

② 各チーム間の試合は勝ち抜き試合とする。

③ 試合は各チーム5名で行い、試合ごとのオーダーの変更を認める。

2. 女子団体試合

① トーナメント戦で行う。

② 各チーム間の試合は体重別点取り試合とする。トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

ウ イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ ウで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

オ エで同等の場合は、代表戦を行う。

③ 試合は各チーム3名で行う。試合ごとのオーダー変更は行わない。

引率・監督

1. 選手は必ず当該校の引率責任者に引率され、引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を負う者とする。
 2. 引率責任者は校長が認める当該校の職員とする。
 3. 監督は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険に必ず加入することを条件とする。
 4. 監督の役割
 - ①監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。
 5. 監督の行為・言動
 - ①試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対し指示を与えることが出来る。
 - ②次の行為を禁止する。
 - (ア) 試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。
 - (イ) 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。
 6. 罰則規定
 - ①1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。
 - ②2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。
- ※次の試合（対戦校）からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席への着席を認めない。

参加資格

1. 高等学校在籍生徒で、平成10年4月2日以降に生まれた者（平成28年4月2日現在で18歳未満であり、第1・2学年に在籍していること）。ただし、同一学年の出場は一回限りとする。
2. 転校後6ヶ月未満の者は出場することができない。ただし、一家転住等の理由により、やむをえない場合はこの限りではない。
3. チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混合は認めない。
4. 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を得ること。
5. 県高体連登録を完了し大会参加が認められている生徒であること。また、全日本柔道連盟に選手登録をしていること。
6. 「脳しんとう」に関する扱いは以下のとおりとする。
 - ①大会前1か月以内に脳しんとうを受傷した者は、脳神経外科の診断を受け、出場の許可を得ること。
 - ②大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。尚至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。
 - ③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④当該選手の指導者は、大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
7. 皮膚真菌症（トリコフィトン・トングランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
8. その他詳細は全国大会に準ずる。

参加制限

1. 男子団体試合
 - ①1校1チームとし、監督1名 選手10名以内を登録する。最低3名の選手登録で出場を認めるが、全国大会出場校は5名の登録が必要。
 - ②個人試合終了30分後までに6名エントリーする。それ以後の選手変更はできない。

- ③試合の成立は最低3名の出場選手が必要。
2. 女子団体試合
- ①1校1チームとし、監督1名 選手7名以内を登録する。最低2名の選手登録が必要。
- ②個人試合終了30分後までに選手3名、補欠2名をエントリーする。それ以後の選手変更はできない。
- ③体重区分は、先鋒：52kg以下、中堅：63kg以下、大将：無差別。（体重の軽い者は重い階級に出場できる。）なお、補欠は該当する階級に出場できる。
- ④計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
3. 男子個人試合
- ①体重区分は4階級[60kg級, 66kg級, 73kg級, 81kg級]および無差別とする。
- ②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
- ③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
- ④各地区、各階級、4名の選手に推薦順位をつけて推薦する。
4. 女子個人試合
- ①体重区分は4階級[48kg級, 52kg級, 57kg級, 63kg級]および無差別とする。
- ②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
- ③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
- ④女子は、以下の階級に登録できる。
- (1) 団体・先鋒（52kg以下に登録した場合）
個人は、48kg級・52kg級・無差別のいずれかに登録できる。
- (2) 団体・中堅（63kg以下に登録した場合）
個人は、全ての階級ならびに無差別のいずれかに登録できる。
- ⑤地区による参加制限を設けず、オープン参加とするが、各地区選考会への登録を必要とする。

計 量 男女個人試合計量：1月14日（土）12：00～12：30の間、大会会場で実施する。
（無差別は計量しない。）※女子個人の計量は、女子団体の計量を兼ねる。
女子団体試合計量：1月15日（日）8：00～8：30の間、大会会場で実施する。
※前日計量を行っていない選手のみ計量を行う。
服装は高体連規定に準じる。計量を行わない者は出場できない。

参加申込 各地区予選会において、所定用紙に必要事項を記入の上、参加料（男子団体：5,000円、女子団体：3,000円、個人：2,000円）を添え各地区高体連柔道専門委員長に申し込むこと。

組み合わせ 12月13日（火）に、県専門委員会において行う。
男女団体試合については、ともに新人大会の上位4校（男子については団体I部）をシードし他の学校については県専門委員会がフリー抽選で配置する。
女子個人試合については、新人大会の成績により上位2名の選手をシード位置に配置し、残りの選手は、フリー抽選で配置する。
登録変更団体試合について男女とも2名までの登録変更を認める。1月14日（土）午後2時30分までに大会本部で受け付ける。ただし、所定の用紙に必要事項を記入の上、学校長の許可（校長印）が必要。また、最大登録人員に満たない学校の場合は、追加登録として参加料を徴収する。

その他 1. 団体試合の優勝チームおよび個人試合優勝者は長野県の代表として全国大会に参加できる。優勝チームが全国大会の参加資格に合わない場合は、次順位校とし、その選出・決定については、県専門委員会で協議する。

2. 競技中の傷害・疾病などの応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。